

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2020年6月7日（日）

主 題：「新しいいのちに生きる」

—イエスに倣うこと—

テキスト：1 ペテロの手紙1章13～16節

**はじめに**

- ・最近、よく耳に入る言葉の1つに、「アフター・コロナ」という言葉があります。そういう名目で書かれた記事、新聞、雑誌等があります。またそのような名目の講演会も開かれています。
- ・皆さんはいかがでしょう。今回、日本は、いえ全世界が、「コロナ・ウイルス」という疫病によって、大被害を受けてしまいました。恐らく、これは歴史を変えるほどの大きな出来事でしょう。私たちの生活も「アフター・コロナ」には、きっと変わることでしょう。
- ・ビジネスをしている方々、会社やお店の経営をしている方々は、直接に打撃を受けました。そこで働く多くの従業員も、打撃を受けました。ですから、当然のこと、「アフター・コロナ」問題は他人事ではありません。どう生きるかというテーマは、真剣な問いであります。
  
- ・皆さん。人は先に、どういう希望を持っているかによって、その生き方が変わってきます。ですから先を考えることは大切です。神の聖徒である私たちは、先の希望について考えるとき、次の2点あります。
  - ① 地上の生活の希望
  - ② 御国の生活の希望
- ・この2点は大切なことです。それはどんな希望でしょうか。
  - ① 地上の生活の希望
 

私たちは全能の神を信頼し、地上での生活においても、知恵をいただき、神に先導していただき生きてことができます。困難な状況下にあっても、全能の神は近くにおられ、必ず先導くださいます。なぜなら、神は私たちを真に愛してくださっているからです。
  - ② 御国の生活の希望
 

目に見えない、まだ実現していない御国に向かい、希望を置いて生きることです。ペテロは、本日のテキストでこの点において語っています。すなわち、どのような希望を持つかによって、生き方が変わります。
  
- ・いかがでしょう。私たちは今、どんな生き方を考えているのでしょうか。
 

コロナ問題はまだ収束していませんが、「アフター・コロナ」は、現実の問いであります。ペテロは13節で、「**ですから**」と言いました。それは前の聖句を受けて、それに相応しい歩みができるようにということです。
- ・今日、私たちは次の2点から考えてみたいと思います。

**大切なポイント****1. 新しいいのちに生きる人生**

1:13 ですから、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。

・私たちはこの聖句から、次の3点を学ぶことができます。

### 1) 「心を引き締めること」

・「心を引き締める」と訳されている言葉は、「心の腰に帯を締める」という意味です。当時の服装を思い出してください。長い衣の裾をたくし上げて、帯を締めることで、自由に動ける姿を思い浮かべてください。

・イエスはルカ福音書 17 章で、次のように言われました。

17:8 『私の夕食の用意をし、私が食べたり飲んだりする間、帯を締めて給仕しなさい。』

・「心を引き締める」とは、余計なものを除いて、神のみこころを行うことに集中するという事です。妨げになるものを除いて、積極的に良いわざに向かうため、心を引き締めることです。

### 2) 「身を慎むこと」

・「身を慎む」とは、もともと「酒を飲まず、醒めていること、しらふでいること」を意味します。つまり、ふらふらするのではなく、安定感をもちバランスを保っていることです。それを習慣的生活態度にすることです。そういう人は、さまざまな新しい教理にもてあそばれることがなくなります。

### 3) 「ひたすら待ち望むこと」

・心を引き締めることも、身を慎むことも、これらは待ち望むためです。「ひたすら待ち望みなさい」という言葉は、「すべての希望を置く」と訳すこともできます。

・では、何を待ち望むのでしょうか。どこに希望を置くのでしょうか。

それは「イエス・キリストが現れるときに与えられる恵み」です。イエスが再び来られる時に実現する「救いの完成」です。

・ここで覚えないことは、私たちは「すでに」と「未だ」の間（はざま）に生きる存在であることです。私たちは「すでに」、神によって義と認められ、永遠いのちを与えられています。しかし、「未だ」世界は罪の中にあります。罪によって損なわれ、悪しき者（サタン）の影響下にあります。「未だ」罪の影響下にあり、悩むものです。その意味で、救いは完成していません。

・「すでに」と「未だ」の間にあるのです。ですから、待ち望むのです。救いの完成を待ち望むのです。なんといい幸いではありませんか。神はさらに多くの祝福を与えようと用意しておられます。

・ですから「ひたすら」待ち望むことです。そこに全ての希望がかかっています。忍耐が必要です。ローマ人への手紙 5 章

5:3 それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、そのように待ち望む歩みにおいて、私たちは聖なる者とされていきます。

・ペテロは、キリスト者は苦難の中でも「新しいいのちに生きる」ことを説いています。そのために3点が大切と教えました：①心を引き締めること、②身を慎むこと、③ひたすら待ち望むこと。

## 2. 神の「インヴィテーション」 (招き)

- ・私たちが神を信じる者は、ただ救われただけというわけではありません。  
幸いなことは、私たちは神に招かれている聖徒であることです。
- ・もし、あなたがレストランへ行き正式のディナーをいただくとしましょう。  
大きく分けて、前菜（オードブル）があり、メインディッシュがあり、そしてデザートがあるでしょう。
- ・前菜だけ食べて、「ご馳走さま！」と言って、席を立つことはないでしょう。  
肉や魚のメインディッシュが、その後に来るからです。救われただけで、メインディッシュの恵みを知らないとすれば、それは前菜だけで食事を終えるようなものです。
- ・ペテロは、神のその恵みについて次のように書きました。  
1:14 従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、  
1:15 むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。  
1:16 「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。
- ・ここで、これらの聖句を少し整理してみましよう。私はこの聖句を読んでいく中で、次の2つの「インヴィテーション」（招待、招き）を覚えます。

### 1) 従順への招き

- ・神の食卓に招かれた者として、応答する（従順に）ことです。  
私たちはキリスト・イエスに出会う前までは、どのような者であったでしょうか。エペソ人への手紙にはこう書かれています。  
2:2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。  
それは無知で、欲望のおもむくままに生きるものでした。
- ・しかし、これからはそうであってはなりません。自分勝手な生活を捨てて、神に従順に生きることが、真の信仰者とされていることのしるしです。
- ・ペテロはこう言いました。  
1:14 従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、  
① 「従う」という言葉は、「調子を合わせる」ということです。  
ローマ 12 章には、こう書かれています。  
12:2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。
- ・以前は、人間だから、このくらいは当たり前と思って、他人の悪口を言っていたかも知れません。自分の我を通そうとしたかも知れません。しかし、キリスト者となった今は、自己中心に生きようとする自分の欲望に、身をゆだねてはいけません。悪事に「調子を合わせて」はいけません。勇気をもって拒否しなさいということです。
- ② 「従う」という言葉は、同じステップを踏むことです。ドイツ語では、同じことをすることを、“nach machen”（ナッハ・マッヘン：後について同じように行うこと）という面白い表現があります。子どもが教師の言うように、後について行うこと。“nach machen”です。まさしく、そのとおりです。
- ・さらに、ペテロはどのような生き方をすべきかを説きました。それが、もう1つの招きです。

## 2) 聖なる生活への招き

1:15 むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。

1:16 「あなたがたは聖なる者でなければならない。わたしが聖だからである」と書いてあるからです。

### ① 聖なる方に倣う

・聖なる方とは、イエス・キリストです。イエスに倣う生き方をすることです。人間の考える「聖人君子」ではありません。人として完成していくというより、神に似た者にされていくということです。それは回復です。

・創世記1章には次のように書かれています。

1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似 姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

・私たち人間は、神のかたちとして造られた者です。ですから、その本来の姿を回復していくということです。それがペテロの語った「むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い」(1:15) という意味です。ここに私たちのゴールがあります。

みことばは次のように勧めています。 エペソ5章

5:1 ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。

・1テサロニケ1章

1:6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。

・それにしても、神に似るとは、なんとすばらしい目標でしょうか。さらにペテロはこう勧めました。

### ② 生活のすべてにおいて倣う

1:15 あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。

「生活のすべてにおいて」とは、どういうことでしょうか。それは生活のすべてにおいて、神ご自身のように愛をもって生きなさいということです。

・私たちは、時として「これだけは別」と、自分自身を甘やかしてしまうことがあります。そうではなく、家庭で、職場で、学校で、イエスであれば、どうされるだろうかと考えることです。そしてイエスに倣うことです。

・私たちはここまで学んできますと、聖書は私たちに非常に高いハードルを置いているのではないかと思いますね。「あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。」(1:15) とは、「先ず無理！」と思います。

私もそう思います。

・では、具体的にどうすれば良いのでしょうか？

注意してお聞きください。聖くなることを求める歩みは大切です。

しかし、私は逆を申し上げたく思います。なぜなら、私たちはイエス・キリストを受け入れた後も、罪を犯す弱さをもっている者です。聖くなることを求めても、求めても、弱い私たちは神の求めておられる聖さには達しえないからです。

- ・覚えてください！ 神は、もう一人の助け主である聖霊を与えてくださいました。聖霊の重要な働きの一つ、それは罪を示すことです。イエスは言われました。

**12:32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。 マタイ**

なぜ、聖霊の逆らうことを言う者は赦されないのでしょうか？

それは、聖霊が罪を示すからです。聖霊を否定するならば、罪を示す聖霊の働きはブロックされてしまいます。ですから、聖霊に逆らうことを言うてはなりません。

- ・聖なる者となる道は、

① 罪から遠ざかること。聖霊は、良心に語られる

② その御声に聞き、従うこと。イエスに倣う人とされていきます。

- ・すると、神ご自身に似た者に近づけられます。その最終ゴールが、「救いの完成」と呼ばれるものです。救いの恵みを受けたクスチャンの心には、そのような主の働きかけがあります。ですから、その声に従順に従っていきましょう。

- ・ヨハネの福音書

**10:3 門番は牧者のために門を開き、羊たちはその声を聞き分けます。牧者は自分の羊たちを、それぞれ名を呼んで連れ出します。**

**10:4 羊たちをみな外に出すと、牧者はその先頭に立って行き、羊たちはついて行きます。彼の声を知っているからです。**

**10:27 わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。**

- ・羊である聖徒は、良き羊飼いであるイエスとともにいる者ではありませんか。

## まとめ

主 題：「新しいいのちに生きる」

—イエスに倣うこと—

- ・私たちは今日、神の「インヴィテーション」に応答する人生を学びました。

神は、すでに宴会の席に私たちを招く備えをしておられます。私たちは招かれた者として、人生をどのように生きるべきでしょうか。それは2つの生きる姿勢です。

### 1. 新しいいのちに生きる人生

**1:13 ですから、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。**

### 2. 神が与える「インヴィテーション」に答える人生

**1:15 むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。**

- ・神の招きに応答する生き方とは；

- ① 神に従順であること
- ② イエスに倣うこと

\* God bless you!